

兵庫県将来構想研究会 第2回会議 (2019. 11. 12) 要旨

【議題】人口動態① (将来推計人口から見えてくる 2050 年の兵庫像)

(なりたい姿をまず描く)

- 人口減少を前提に考えるのではなく、なりたい地域の姿をまず描き、そのために何をするかを考える。その際の障害の一つとして人口減少を考慮に入れるという順で考えるべきだ。
- 今後どう変わるかは予測困難。どうしたいかを先に考えるべき。10年で陳腐化することを話し合っても仕方がない。新しい技術で暮らし方や働き方をどう変えたいかを考えよう。
- 人口減少の話はもういいのでないか。人口が減ってもなんとかなるのではないか。関係人口の話ですら「増やす」という議論になってしまっていることこそ、危惧すべきだ。
- 現在の制度や仕組みを全て取り払い、真っ白な状態からもう一度作り直すぐらいの発想で 2050 年の兵庫を考えてはどうか。

(地方こそ若者のフロンティア)

- 今の若者には、課題が山積している地方がフロンティア。全国で若い人がトライしている。
- 課題が先鋭化しているところほど、若い人が活躍できる場がある。人が少ないほど、イノベーションを起こしやすい。都会と田舎の間の地方都市の方が変化への対応という意味では問題。
- 小規模になっていくと、意思決定をする団体も小さくなるので、新しいことをやりやすい。
- 規制や計画があって環境の質が保たれている。若者が入ってきて自由にされるだけでは困る。自由とミニマム規制のバランスが重要。

(今のままの多自然地域ではあり得ない)

- 農村、農業の世界では、今のままだと 2030 年頃には維持できなくなるシステムが多いと感じている。10年後くらいに崩壊してしまうものと、2050 年は分けて考えないといけない。
- 都市部は緑地が増え、豊かな生活になる一方、多自然地域は人の関わりがなくなることで貴重な自然環境が失われ、土砂災害の危険も増す。すべての地域を守ることができない中で、どこを残し、どこを残さないのか、難しい判断が求められる。

(生き方の選択肢を増やす)

- 働き方の大変革が必要。まず一斉就職をやめて、若者がいろんな経験をしながら仕事を選んでいける社会にすべき。失敗を許す環境、何度でもチャレンジできる環境を作ることも重要。
- 親が自営業の学生が少なく、サラリーマン以外の選択肢が見えていない学生が多い。
- 生き方について学生の視野が狭い。世の中にはいろんな仕事、稼ぎ方がある。世の中にはいろんな生き方があるということに子どもの頃から触れられるようにする必要がある。

(サラリーマン社会からの脱却を)

- 自営業だと子どもの頃から親を見て意思決定するトレーニングをしているが、組織に入ると、基本的に自分で意思決定してはいけないということを学ぶ。
- 結婚までに自分のやりたいことをしようという考えから女性の方がチャレンジする人が多い。男性の方が保守的である。
- サラリーマンを作る教育システムから、もっと多様な人材を育てる教育システムに切り替える必要がある。問題の根幹は初等中等教育にある。内申書を重視するのも問題だ。

(企業経営の刷新を)

- ・ 企業は合理的に行動するというのが経済学の基本だが、事实は、非合理的で硬直的な企業が多い。地域経済を形作っている企業がもっとイノベティブになる必要がある。
- ・ 新技術の導入にはたいてい現場からの抵抗があるのでトップダウンが必要だが、今一番障害となっているのは経営者。長年の成功パターンを捨てられず、勉強もしない人が多い。
- ・ AI を使う意味は、人件費の削減ではなく、データを使って新たな事業を始めるところにある。

(質が問われる時代に)

- ・ 生活の質を上げる政策にもっとシフトすべき。特に社会的弱者のQOLの底上げが重要。
- ・ 公共的な空間の民間活用を進めることで、都市域では生活空間の質を高められるはず。
- ・ キャリアを通じて、その場所でどんな経験ができるかを考える若者が増えている。

(新しい技術は社会のあり様を変える)

- ・ テレワークが普及すればこんなに都市に住む必要はなく、いろんなところに住むことができる。つまり世の中が変わる。新しい技術が社会をどう変えるかという視点を持つことが大切。
- ・ 自動運転技術は著しく進歩している。自家用車と公共交通の中間のような乗り物ができるのではないか。移動空間がオフィスやベッドになれば、通勤の時間費用がなくなる。

(地域コミュニティの作り直しが必要)

- ・ 地域コミュニティの作り直しを議論する必要がある。コミュニティが地域の資源をマネジメントしていく流れが望ましい。地域の資源に投資することによって経済を回す仕組みも必要。
- ・ 地域の共有財産から収奪してお金を得てきたのがこれまでの経済だとすれば、これからは地域の資本である共有財産を充実させる経済に変えていかないといけない。
- ・ 行政サービスが低下していく中で、地域のことを良く知り、合意形成を含めて地域をコーディネートできる人材の重要性が増す。今はこうした人材の社会的位置付けが脆弱。
- ・ 折れない心や強い心のもとになる「心理的資本」はコミュニティの中で多く蓄積される。心理的資本を育む場としての「サードプレイス」がいろいろなどころにあることが大事。

(曖昧で遠い未来より明確で近い未来)

- ・ 今の学生は、同じ企業に勤め続けることが重要とは考えていない。彼らが重視するのは、曖昧で遠い未来ではなく、明確で近い未来。彼らにとっては、そこでどんなキャリアを築けるのか、どんな生活ができるのかが重要。

(固定化から流動化へ)

- ・ 定住人口だけを問題にすべきではない。関係人口の話もあるが、人口はフローで捉えるべき。
- ・ 住まいも職業も流動性を高める仕組みに変えていくべき。日本の場合は固定化する仕組みになっていて、移動すると損をする。移動を促す仕組みに変えていくことが大事。

(兵庫を未来の実験場に)

- ・ 中国がなぜあれほど速いかというと、国を挙げて大規模に実験を進めているから。豊かになりたいなら特区を各地に立ち上げて、実験的なビジネスをたくさんやるべき。
- ・ 行政自らも起業家精神を持ち、あちこちにぶつかりながら進んでいくことが大切。

(以上)